

## 1 簡易かん水器「アクアドリップ」の特徴

- ① 容器内の水位が下がってもかん水器上部の膨らみ部にはかん水開始時の水位が維持され、一定水量の範囲で容器内の水が無くなるまで点滴かん水できます。
- ② 容器の形状は問いませんが、18L容の灯油タンクが価格、強度などから適しています。本容器を使用した場合、1日当たりのかん水量はかん水開始時は1.0L、最終時には0.5L程度になり、3～4週間にわたって連続かん水できます。
- ③ 対象となるのは主に果樹類、花植木類であり、これらの苗木又は1～2年生の若木の生育促進効果、かん水の省力化に役立ちます。

## 2 かん水の手順

- ① かん水器の膨らみ部の上のチューブをクリップで閉じ、水の入った容器にかん水器を入れて下さい(写真1)。
- ② 先端キャップ先のチューブに吸水管の先端部を差し込んで下さい(写真2)。
- ③ 吸水管の末端から容器内の水を吸い込み、吸水管の先端部まで水が達したら吸水管を引き抜いて下さい(写真3)。
- ④ クリップを開けかん水器内に空気を入れ、膨らみ部の中央付近までの水位に達したらクリップを閉じて下さい(写真4)。
- ⑤ 容器の底より5～10cm前後低くなるように先端キャップを固定すれば、かん水開始です(写真5)。
- ⑥ 滴下部を横にするとかん水器内に空気が流入し、かん水できなくなる恐れがあります。滴下部は真下とし、移動などにより滴下部を横にするときは付属のクリップで先端部を閉じて下さい(写真6)。



写真1(クリップで管を閉じる)



写真2(吸水管を差し込む)



写真3(容器内の水を吸い込む)



写真4(クリップを開け水を落とす)



写真5 点滴かん水



写真6 滴下部をクリップで閉じる

### \* 土中かん水の勧め

土の表面にかん水するよりも、土の中へ直接かん水とより効率的です。

- ① 内径1.5cm又は2.0cm、長さ15cmの塩ビ管を用意して下さい(写真7)。
- ② かん水する株元に塩ビ管を約10cmの深さまで埋め込み、5cm程度を地表面に出して下さい。
- ③ 長さ10cmのV字型ビニル管(付属品)を滴下部に差し込み、塩ビ管内に入れれば終了です(写真8)。



写真7(内径 1.5~2.0cm の塩ビ管を用意する)



写真8(土中かん水)

3 付属品 (1セット) かん水紐4個、かん水紐交換用針金1個、吸水管1個、V字型ビニル管1個

#### 4 メンテナンス

かん水を40~50日程度続けると藻などの発生により紐が汚れ、かん水量が低下し紐の交換が必要になります。かん水紐は別途販売いたします。

- ① 先端キャップ及び針金が挿入してあるビニル管を外し、先端キャップの部分からビニル管内の紐を引き出して下さい(写真9)。
- ② 針金の末端を曲げて交換用の紐又は洗浄済みの紐を掛け針金を膨らみ部から挿入し、かん水器内に紐を通して下さい(写真10、11)。
- ③ 先端キャップを元の状態に差し込みます。
- ④ 膨らみ部末端から外に出た紐を膨らみ部内入れ、外したビニル管を元の状態に差し込めば終了です。



写真9(紐を引き出す)



写真10(膨らみ部より針金を通す)



写真11(紐をビニル管内に入れる)

#### 5 注意事項

- ① かん水器内に空気が入ると水位が下がりがん水できません。クリップが閉じているか、先端キャップ又は膨らみ部末端にビニル管がしっかり入っているか確認して下さい。
- ② 膨らみ部の水位は全体の60~70%の位置にあるのが最適です。水位が下がったときは最初に滴下部の先端を付属のクリップで閉じ、膨らみ部のクリップを開けて水を吸い上げ水位の調整を行って下さい。
- ③ 膨らみ部最上部まで水が達すると、水が繋がってかん水量が多くなり、長期間のかん水ができなくなる恐れがあります。



株式会社 藤原製作所

本社 〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-46-16

営業部 TEL 03-3918-8111 FAX 03-3918-8119

— 弊社ホームページ [www.fujiwara-sc.co.jp](http://www.fujiwara-sc.co.jp) —